

富士金属株式会社

世界初・プレス加工で
ここまでできる！



超深絞りプレス加工を駆使し、 VA・VEを行う鉄板の魔術師

トランスファープレスで金属加工を行う富士金属。一枚の平板から径の10倍以上もの超深絞り加工を行い、複雑な形状の部品も精密に仕上げる。「これがプレスでできるのか」と見る人を驚愕させる技術を持ちながらも、ホームページや展示会等での情報の発信はしていない。だが、その高い技術力を口コミで聞きたった大手自動車メーカーが、わざわざ依頼に来るという。

例えば、従来ならばパイプ加工にロー付けやカシメ加工を行っていた複合品を、深絞り加工だけでやっつけてしまう。あるいは切削や鍛造していたパイプ加工部品を、一枚の平板から深絞りプレス化したり、深絞りに横穴加工を加えて一体成形までもやっつける。その結果、質量を83gから25gにまで軽量化でき、30%～50%のコストダウンが可能になる。富士金属では、その技術を使い、VA（価値分析）・VE（機能とコストを見直し価値の向上を図る）提案を行っている。

「当社では、ただ安いものを作ればいい、とは考えていません。お客様に、まず『何に使うのか、強度はどれくらい必要か』を聞きます。機能や使用目的が果たせるのであれ

ば、パイプ材の鍛造や切削をしなくても、プレス加工だけで十分なケースが多いです」と山中芳取締役は言う。顧客の発想にない提案で驚かれることも多いが、過去の多くの採用例を見て安心するという。

国家技能検定合格者15名と 熟練技能者が作り出す プレス加工品は世界一

富士金属の工場には、32台のトランスファープレス機が並ぶ。だが、機械があればそれでいい物を作れるというものではない。同社の強みは、独自開発の金型にある。顧客の様々な希望に応えるために、金型はすべて内製。同社のプレス機は、一工程ごとに金型を調整できるよう、独自仕様のものであり、複雑な工程の場合は、2台のプレス機をつないで加工することもあるという。

製造を支えているのは、熟練技能者の中堅15名の国家技能検定合格者、そしてそれに続く若い戦力だ。彼らは、一人1台のプレス機を管理する責任者となる。材料の選定から金型の設置、製造工程の検討、試作品品質管理までを自分の判断で行う多能工として、重要な役割を担っている。富士金属では、全従業員が設計も、金型も、プレスも経験するという。

「現場を知っているから、新しい提案や設計ができます。また、設計段階から関わることで、顧客の求めるものを理解し、それに応える製品が作り出せるのです」との言葉に、高い技術水準を誇る同社の気概が感

じられる。すべてのプレス機に測定機を設置し、品質維持にも力を入れている。

「こんなのが、あったらいいな」創業以来、伸縮性物干し竿や石油器具部品等、多くの特許を取得してきた山中義孝社長の「ない物は作り出す」という精神は、継承されている。

主な事業内容

トランスファープレスによる超深絞りプレス加工、精密絞り加工、VA・VE提案等



山中義孝さん
代表取締役



山中芳さん
取締役

富士金属株式会社

住所／561-0807
大阪府豊中市原田中1-12-3
創業／昭和25年6月
設立／昭和43年11月
資本金／8,500万円
従業員／54名（平成21年1月現在）
TEL／06-6854-8651
FAX／06-6853-6651

ISO 9001
ISO 14001

Company Profile

大阪
20